

“さくさく”の
にごうめが
できました



サイアフ・ ラウンズ ヒストリー

準備期

“空白の数ヶ月”

2014 → 2015

vol. 02

【前回までのヒストリー】

2014年、第一回目の札幌国際芸術祭で生まれた「SIAF カフェ」。芸術祭が終わると、一旦その役目を終え、解体されることになった。そこからやがて「SIAF ラウンジ」が生まれるまでには、実は数ヶ月の空白期間があった。



札幌国際芸術祭（以降 SIAF）2014の終了から息つく間もなく、運営事務局が次回の2017年に向けて、その構想に入ったのは、2014年の11月末頃だった。（運営スタッフの我々は燃え尽きた後で、まだ放心状態ではあったが……）SIAF2014の反省点を話し合う中で、次の芸術祭までをつなぐ活動や、その活動環境をどうするかということが、大きな課題として持ち上がったことは言うまでもなく、「札幌市資料館」を恒久的に芸術祭の活動拠点にしていこうという話が水面下で動いていった。

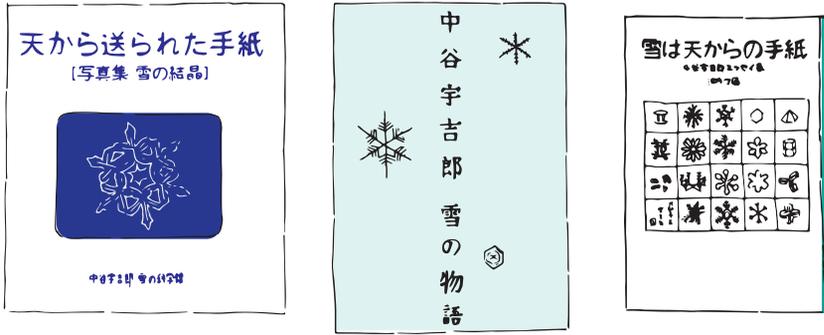
あまり知られていないことではあるが、実のところ札幌市資料館は、2013年度までは札幌市教育委員会が所管しており、2014年度からSIAF2014の開催に合わせて、所管が市民文化局国際芸術祭担当課（現在は札幌市市民文化局文化振興課）に移管されていたのだった。つまり2015年度以降もSIAFの事務局を担う国際芸術祭担当課が、何らかの形で札幌市資料館を運用していくことは、その時点で決定していたのかもしれない……。

プログラムとその機能を、通常の資料館の機能と抱き合わせて運用していく構想が、現実味を帯びてきた。これまで札幌にはなかった活動環境が生まれることに期待が高まった。一回目の芸術祭では必ずしも準備が万全ではなかった、地元住民の方々への周知や、芸術祭の開催意義を伝える啓発活動を、「札幌市資料館」を拠点として今後恒常的に展開できるようにすることは、何よりも重要な取り組みとなることを、関係者の一人ひとりが自覚していたからだ。その構想には、SIAFの情報発信や普及イベントの実施、創作活動を実現する場を、そもそも札幌市資料館に備わっていた様々な機能を損なうことなく設置す

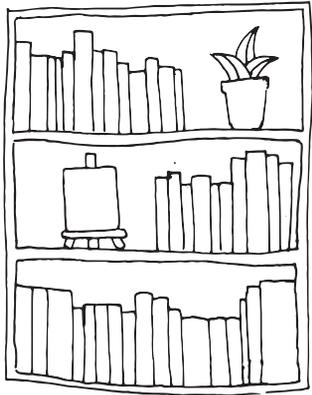


ることが求められた。元来の札幌市資料館は、一階が旧控訴院であった頃の歴史的資料と法律に関する資料の展示で埋め尽くされており、二階は主に貸しギャラリーとして、年間90%を超える稼働率を誇っていた。所管が変わったとはいえ、本来持っていたこうした機能や仕組みを大きく変えることはできない。様々な議論と調整の結果、一階と二階にそれぞれ1スペースずつを、芸術祭の活動スペースとして確保することが決まった。一階はSIAF2014で「SIAFカフェ」として活用したスペースを「SIAFラウンジ」として、二階はボランティアセンターとして活用したスペース（SIAF2014以前は遠友学校の展示室）を「SIAFプロジェクトルーム」として活用する運びとなる。そして改修工事の末、2015年5月にめでたくオープニングをむかえるのであった。

文：SIAF2020事務局マネージャー 漆原博
次回はよいよ、開設されたSIAFラウンジのスタート段階のお話。
ぜひお楽しみに！



左から、中谷宇吉郎 雪の科学館「天から送られた手紙 [写真集 雪の結晶]」(株式会社プロセスアート)、中谷宇吉郎 雪の科学館「中谷宇吉郎 雪の物語」(中谷宇吉郎 雪の科学館)、池内了編「雪は天からの手紙 中谷宇吉郎エッセイ集」(岩波書店)



ラウンジのほんだな

今回は、北海道に生きる人々にとって身近な存在である雪を、北海道大学で研究していた中谷宇吉郎という人物にまつわる本のご紹介です。SIAF2014では、中谷の研究の成果が道立近代美術館にて展示され、その翌年に開設されたSIAFラウンジにも10冊の関連書籍が配架されました。中谷が雪の結晶の研究を始めたきっかけは、アメリカの農夫・ベントレーによる雪の結晶の写真集を見て、その繊細な模様の美しさに深く感動したことであると言われています。彼は様々な場所で数多くの雪の結晶を観察、その形状の分類と気象や環境条件との関係について調べ、ついには世界で初となる人工の雪の製作を成し遂げました。また、中谷宇吉郎は雪のことを「天から送られてきた手紙である」と言い、雪に関する絵画、科学映画なども手掛け、文化芸術の領域でも評価されることになりました。中谷が雪の結晶に見た魅力は、関連書籍のどこどこから読み取ることが出来ます。北海道の長い冬、中谷の本を手掛かりに空から降る雪に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

第二回テーマ『中谷宇吉郎』

軽食にぴったりな、フランス生まれの惣菜ケーキ。



「パスタある?」「カレーある?」「おにぎりある?」...すみません、どれもメニューにはなくて、その代わりといっはなんですが、「ケーキサレ」という名のお惣菜ケーキがあります。生地は通常だと薄力粉を使うらしいのですが、ラウンジではホットケーキミックスにして、ほんのり甘く、食べやすくしています。具材は、ほうれんそう、たまねぎ、チーズ、お魚ソーセージ(これがとてもよいアクセント!)フランス生まれなのに、どんな具材も合いそうな、懐の深さをかんじる味です。小腹がすいた大人たちにぴったり!野菜ぎらいのちびっこも...これなら平気かな?

【ケーキサレ】



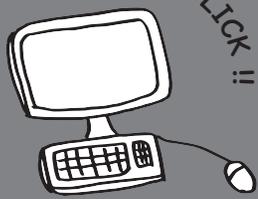
siaf2020matrix.jp

このURLからSIAFマトリクスにGO!

※パソコンのブラウザからご覧ください。なお、一部のブラウザでは正しく表示されない場合があります。

SIAF ラウンジスタッフが「SIAF 2020 Matrix」をやってみた。

2020年12月19日より始まった、SIAF2020に出展される予定だった作品たちをオンラインで楽しむことができるSIAF Matrix(マトリクス)。SIAF2020にまつわるキーワードから様々な作品のアイディアに出会える面白いサイトなんです。私が選んだのは「伝統」というキーワード。このキーワードをテーマに含む作品たちに触れていく中で、自分の中の「伝統」の解釈がどんどん柔軟になっていくような不思議な感覚を味わいました...。次に選んだキーワードは「31歳」。このキーワードから出会った作品の中には、「伝統」にあった作品も含まれていて、このように一つの作品でも色んな見方ができてとても面白いんです。皆さんもぜひこの不思議で楽しい体験を味わってみてください!



SIAFラウンジとわたし。

以前、SIAFラウンジで働いていたとき「ここって何なんですか?」とよく訊かれた。一応、がんばって説明してみたけれど、ちゃんと伝わっていたかどうか。その場所も、活動も、いつも決まった形はなくて常に変容し続けていた(いまでもそうかな?)。いま、2人のこどもを育てていて、ちょっとだけ似ていると思う。毎日3歳と0歳にチャレンジ精神と、瞬発力と、柔軟性を試される。決まりなんてない。やるしかない。何も計画しない方が上手くいったりする。考えるよりも先に、巻き込まれる、という感覚。「SIAFラウンジって何なんだ?」と思ったら、是非、その芽を探しに足を運んでみてほしい。

文:元SIAFラウンジスタッフ川成由